

所属	人文科学系	職名	教授	氏名	吉葉 恭行	記載年月日 (和暦)	平成28年11月09日
I 主な教育活動							
I-1 教育実践上の主な業績(過去3年)							
(平成27年度)平成27年度秋田工業高等専門学校公開講座「科学を歴史する？」(合併教室,平成27年7月25日,秋田高専),岡山大学非常勤講師(教養教育)「死と生を見つめる—介護の現場に向かう人文学」							
(平成26年度)岡山大学非常勤講師(教養教育)「死と生を見つめる—介護の現場に向かう人文学」							
(平成25年度)東北学院大学経済学部非常勤講師「情報リテラシー I・II」							
I-2 クラブ指導における主な業績(過去3年)							
(平成27年度)野球部3位(第52回東北地区高等専門学校体育大会,7月)。							
(平成26年度)サッカー3位,優秀選手3名表彰(第51回東北地区高等専門学校体育大会,7月,福島)。1名が高専選抜チームに選抜され3月下旬のドイツ遠征参加。							
I-3 その他の該当事項(過去3年)							
(平成26年度)新任教員研修会(26年度)(8月,東京)							
I-4 校務担当(該当年度も含め過去3年)							
(平成28年度)副学生主事,学生委員会,広報・地域交流委員会,知的財産委員会							
(平成27年度)クラス担任(2年機械工学科),学生委員会,広報・地域交流委員会,入学志願者対策委員会,入学志願者対策専門部会,知的財産委員会							
(平成26年度)クラス臨時担任(1年電気情報工学科)							
I-5 担当クラブ等(該当年度も含め過去3年)							
(平成28年度)硬式野球部							
(平成27年度)硬式野球部							
(平成26年度)サッカー部							
II 主な研究活動(著書・論文等の名称)(過去7年以上.専攻科様式第5号形式とする)							
著書・論文等の名称	単著 共著	発行又は発表の年月	発行所,発表雑誌 (及び巻号数)等の名称	編者・著者名(共著のみ)			
II-1 (学位論文)							
我が国の製造業の国際的技術移転とその特質 (博士論文)	単著	平成16年3月	東北大学				
マレーシアの金型産業の展開—開発途上国の工業化といわゆるサポーター・インダストリーの役割—(修士論文)	単著	平成13年3月	東北大学				
II-2 (著書)							
戦時下の帝国大学における研究体制の形成過程—科学技術動員と大学院特別研究生制度 東北帝国大学を事例として—	単著	平成27年2月	東北大学出版会				
東北における産学官連携—21世紀の東北を考える懇談会の軌跡—	共著	平成23年2月	東北大学出版会	佐藤利三郎・本村昌文・吉葉恭行			
東北大学百年史 第3巻 通史3	共著	平成22年3月	東北大学	東北大学百年史編纂委員会			
東北大学百年史 第2巻 通史2	共著	平成21年1月	東北大学	東北大学百年史編纂委員会			
II-3 (学術論文)							
The Special Graduate Education System of Japan during World War II	単著	平成20年12月	Saito Ho-on Kai Museum of Natural History Research Bulletin, No.73, Saito ho-on kai, pp.37-42.				
我が国の電気機械工業の国際的技術移転の枠組みについて—戦後復興期から成長期における電力機器を中心に—	単著	平成16年6月	東北大学科学史・科学技術論叢, No.3, pp.29-38.				
高度経済成長期における日本鉄鋼業の技術移転について—ウジミナス・マラヤワタを中心に—	単著	平成16年3月	創立10周年記念論文集:東北大学大学院国際文化研究科,東北大学大学院国際文化研究科, pp.125-143.				
小型モーターメーカーの技術移転の特質—マップモーター社の事例研究—	単著	平成14年12月	国際文化研究, No.9, pp.263-278(東北大学国際文化学会).				
金型産業の技術的特質—日本とマレーシアの金型産業を比較して—	単著	平成12年12月	国際文化研究, No.7, pp.223-238(東北大学国際文化学会).				
II-4 (研究紀要)							
戦時下の学術研究会議研究班と東北帝国大学—『昭和二十年度/研究班組織原簿』の分析を中心に—	単著	平成26年3月	東北大学史料館紀要, 第9号, pp.60-73.				
近代の医療技術の形成過程	単著	平成26年1月	『2013年度日本学術振興会 二国間交流事業オープンパートナーシップ・セミナー 介護と看取りの現場に根ざす新たな思想史・文化史研究の構築 研究報告書』, pp.30-33.				
戦時下の学術研究会議研究班と東北帝国大学	単著	平成25年3月	東北大学史料館紀要, 第8号, pp.25-40.				

創始期の齋藤報恩会による学術研究助成の実 際―八木秀次らの『電気通信法ノ研究』を中心 に―	共著	平成25年3月	東北大学史料館紀要, 第8号, pp.14-24	米澤晋彦
戦時科学技術動員下の東北帝国大学―大久 保準三文書を手掛かりとして―	単著	平成24年3月	東北大学史料館紀要, 第7号, pp.13-33.	
財団法人の学術研究助成についての一考察 ―創始期の齋藤報恩会による学術研究費補助 の変遷と東北地方学術振興を中心に―	共著	平成24年3月	東北大学史料館紀要, 第7号, pp.1-12	米澤晋彦
東京帝国大学大学院特別研究生候補者の研 究事項解説書―昭和十八年度～昭和二十年 度	共著	平成23年3月～平成25 年3月	東京大学史紀要, 第29号-第30号	小幡圭祐
財団法人の学術研究助成についての一考察 ―創始期の齋藤報恩会による学術研究費補助 の変遷と東北地方学術振興を中心に―	共著	平成23年3月	東北大学史料館紀要, 第6号, pp.38-51.	米澤晋彦
戦時下の大学院特別研究生制度について―昭 和18年～昭和20年の文部省銓衡会の協議を中 心に―	単著	平成23年3月	東北大学史料館紀要, 第6号, pp.15-37.	
財団法人による研究助成の実―戦前の齋藤 報恩会を事例として―	共著	平成22年3月	東北大学史料館紀要, 第5号, pp17-27	米澤晋彦
東北帝国大学の産学官連携―関係規程の整 備過程にみる「実用を忘れざるの主義」路線―	単著	平成22年3月	東北大学史料館紀要, 第5号, pp.1-16.	
戦時下の大学院特別研究生制度と東北大学 ―聞き取り調査を中心に―	単著	平成21年3月	東北大学史料館紀要, 第4号, pp.75-105.	
東北帝国大学特別研究生候補者の研究事項 解説書―昭和18年～昭和20年度―	単著	平成20年3月	東北大学史料館紀要, 第3号, pp.31-81.	
戦時下の大学院特別研究生制度と東北大学	単著	平成19年3月	東北大学史料館紀要, 第2号, pp.25-45.	
II-5 (国際学会等発表) 予稿集, 会議論文集があれば付記のこと				
秋田鉱山専門学校での中国人留学生	単著	平成26年11月	日中二国間学術交流セミナー「日中留学生研究の現状 と課題」, 北京日本学研究中心(中国北京市), 南開 大学日本研究所(中国天津市), 2014.11.2, 口頭発表.	
介護技術についての一考察	単著	平成26年3月	「日本社会文化講座」, 北京日本学研究中心(中国 北京市). 2014.3.7.招待講演.	
近代の医療技術の形成過程	単著	平成25年11月	2013年度日本学術振興会 二国間交流事業オープン パートナーシップ・セミナー「介護と看取りの現場に根ざ す新たな思想史・文化史研究の構築」, 北京日本学研 究センター(中国北京市). 2013.11.1.口頭発表.	
戦時下の東北帝国大学における研究体制の形 成過程	単著	平成24年9月	「戦前期の帝国大学における研究体制の形成過程」研 究報告会, 北京日本学研究中心(中国北京市). 2012.9.8. 口頭発表.	
II-6 (国内学会等発表)				
介護技術の発達と老年観の変容について	単著	平成28年9月	科研費基盤B「ケアの現場と人文学研究との協働による 新たな(老年学)の構築」第5回研究会, 2016年9月10 日、広島国際大学呉キャンパス	
介護技術をめぐる日本の科学技術政策につい て	単著	平成28年5月	日本科学史学会第63回総会・年会, 東京. 2016.5.28. 口 頭発表. (『研究発表講演要旨集』, p.32.)	
秋田鉱山専門学校史研究の現状と課題	単著	平成28年3月	秋田大学史学会第76回研究会, 秋田大学教育文化学 部, 2016.3.13. 口頭発表.	
戦時下の科学技術動員と帝国大学の学生たち ―東北帝国大学の事例を中心に―	単著	平成27年8月	旧制高等学校記念館 第20回夏期教育セミナー, 松本 市教育委員会(旧制高等学校記念館), 2015.8.23. 招 待講演.	
新たな(老年学)への科学史・技術史研究から のアプローチ	単著	平成27年1月	科研費基盤B「ケアの現場と人文学研究との協働による 新たな(老年学)の構築」第2回研究会, 2015年1月10 日、岡山大学	
介護ロボットはケアラーを救うのか?	単著	平成26年3月	公開シンポジウム「あなたが(介護者)になるとき―「ケア ラー」(無償の介護者)支援の最前線から考える―」, 岡 山大学. 2014.3.15. 招待講演.	
戦時下の学術研究会議研究班についての一考 察	単著	平成24年5月	日本科学史学会第59回総会・年会, 三重. 2012.5.26. 口 頭発表. (『研究発表講演要旨集』, p.28.)	
創始期の齋藤報恩会による学術研究助成の実 際	共著	平成24年5月	日本科学史学会第59回総会・年会, 三重. 2012.5.26. 口 頭発表. (『研究発表講演要旨集』, p.29.)	米澤晋彦
戦時下の大学院特別研究生制度について―制 度確立と特別研究生銓衡の経緯を中心に―	単著	平成23年5月	日本科学史学会第58回総会・年会, 東京. 2011.5.29. 口 頭発表. (『研究発表講演要旨集』, p.75.)	
創始期の齋藤報恩会における学術研究助成	共著	平成23年5月	日本科学史学会第58回総会・年会, 東京. 2011.5.28. 口 頭発表. (『研究発表講演要旨集』, p.52.)	米澤晋彦
創始期の齋藤報恩会と東北帝国大学	共著	平成22年5月	日本科学史学会第57回総会・年会, 東京. 2010.5.29-30. 口頭発表. (『研究発表講演要旨集』, p.45.)	米澤晋彦

東北帝国大学の産学官連携	単著	平成22年5月	日本科学史学会第57回総会・年会,東京,2010.5.29-30. 口頭発表. (『研究発表講演要旨集』, p.38.)	
財団法人による研究助成の実例－戦前の斎藤報恩会を事例として－	共著	平成21年5月	日本科学史学会第56回総会・年会,福岡,2009.5.23-24. 口頭発表. (『研究発表講演要旨集』, p.84.)	米澤晋彦
大学院特別研究生制度成立の経緯－年限短縮と大学院拡充を巡る議論を中心に－	単著	平成21年5月	日本科学史学会第56回総会・年会,福岡,2009.5.23-24. 口頭発表. (『研究発表講演要旨集』, p.82.)	
Historical Study of High Voltage Circuit Breaker Technology	共著	平成20年9月	電気学会電気技術史研究会, 東京, 2008.9.11. 口頭発表.	HOSHINA Yoshikazu
戦時下の大学院特別研究生制度について－東北大学の聞き取り調査報告を中心に－	単著	平成20年5月	日本科学史学会第55回総会・年会, 東京, 2008.5.24-25. 口頭発表. (『研究発表講演要旨集』, p.65.)	
電気機械工業の技術交流の歴史について－遮断器技術の展開とその社会的背景を中心に－	単著	平成19年1月	電気学会電気技術史研究会, 東京, 2007.1.15. 口頭発表.	
戦時下の大学院特別研究生制度について－東北帝国大学の事例を中心に－	単著	平成18年5月	日本科学史学会第53回総会・年会, 東京, 2006.5.27-28. 口頭発表. (『研究発表講演要旨集』, p.49.)	
産学官連携の歴史的検討－東北大学における財団法人電気通信工学振興会を事例として－	単著	平成17年6月	日本科学史学会第52回年会 札幌, 2005.6.4-5. 口頭発表. (『研究発表講演要旨集』, p.32.)	
我が国の電気機械工業の国際的技術移転について	単著	平成16年5月	日本科学史学会第51回年会, 東京, 2004.5.29-30. 口頭発表. (『研究発表講演要旨集』, p.71.)	
途上国の文化状況と技術移転－日本鉄鋼業とブラジル・マレーシアを事例に－	単著	平成15年7月	日本国際文化学会第2回全国大会, 東京, 2003.7.5-6. 口頭発表. (『プログラム/報告レジュメ』, p.29.)	
高度経済成長期における日本鉄鋼業の技術移転について	単著	平成15年6月	日本科学史学会第50回年会,神戸, 2003.6.7-8. 口頭発表. (『研究発表講演要旨集』, p.51.)	
日本企業の国際展開と技術	単著	平成14年5月	日本科学史学会第49回年会, 金沢, 2002.5.25-26. 口頭発表. (『研究発表講演要旨集』, p.9.)	
マレーシアの金型産業の歴史的展開と技術的特質	単著	平成13年5月	日本科学史学会第48回年会,東京, 2001.5.26-27. 口頭発表. (『研究発表講演要旨集』, p.82.)	
II-7 (解説・総説)				
II-8 (特許)				
II-9 (その他)				
国際シンポジウムにおけるコメンテーター:周琛(東南大学)「中国における高齢者ターミナルケアの歴史と現状」報告に対するコメント		平成27年11月	「少子高齢社会への人文学研究からのアプローチ」日中国際シンポジウム,岡山大学(2015.11.28-29)	
シンポジウム「先端科学技術は介護現場を救えるか?」の司会および趣旨説明		平成27年6月	「先端科学技術は介護現場を救えるか?」公開シンポジウム,岡山大学(2015.6)	
III 学内外の主な競争的資金の獲得(採択されたものに限る)(過去7年)				
III-1 競争的資金の名称				
(平成28年度)科学研究費基盤研究(C)(平成28年度～30年度、課題番号:16K045188、共同(研究代表者)、「帝国大学における研究者の知的基盤に関する研究」)				
(平成28年度)研究成果公開助成(平成28年度～平成29年度、共同(研究代表者)、財団法人斎藤報恩会、「斎藤報恩会と東北帝国大学―財団の学術研究助成と学術の発展―」)				
(平成27年度)新規教育システム構築経費「低学年への社会科授業のIT機器を用いたアクティブラーニング効果の検証(低学年学生の社会科授業への積極参加促進、人文科学的教養の習得)」				
(平成26年度)科学研究費基盤研究(B)(特設分野研究)(平成26年度～29年度、課題番号:26310105、共同(研究分担者)、「ケアの現場と人文学研究との協働による新たな(老年学)の構築」)				
(平成26年度)科学研究費研究成果公開促進費(平成26年度、課題番号:265215、個別、「戦時下の帝国大学における研究体制の形成過程」)				
(平成25年度)科学研究費基盤研究(C)(平成25年度～27年度、課題番号:25381003、共同(研究代表者)、「帝国大学における研究者の知的基盤に関する基礎的研究」)				
(平成22年度)科学研究費基盤研究(C)(平成22年度～24年度、課題番号:22530809、共同(研究代表者)、「戦時下の帝国大学における研究体制の形成過程とその実態に関する研究」)				
(平成20年度)科学研究費基盤研究(C)(平成20年度～22年度、課題番号:20530681、共同(研究分担者)、「帝国大学学生史資料の基礎的研究」)				
(平成20年度)学術研究助成(平成20年度～26年度、共同(研究代表者)、財団法人斎藤報恩会、「わが国の科学技術の展開と産学官の役割についての歴史的検討」)				
IV 学会等及び社会における主な活動				
IV-1 所属学会(記載時)				
(平成28年度)日本科学史学会、大学史研究会、科学技術社会論学会、秋田大学史学会、秋田歴史研究者・研究団体協議会、秋田近代史研究会				

IV-2 外部団体からの受賞および表彰(過去7年)
IV-3 外部委員会の委員等(過去3年)
IV-4 その他の該当事項(過去7年)
(平成28年度)東北大学史料館協力研究員 (平成27年度)東北大学史料館協力研究員 (平成26年度)東北大学史料館協力研究員
V 担当教科(該当年度を含め過去3年)
V-1 専攻科(該当年度も含め過去3年)(生産:生産システム専攻, 環境:環境システム専攻)と略記
(平成28年度)社会経済史(専1)、事業経営論(専2) (平成27年度)社会経済史(専1)、事業経営論(専2) (平成26年度)社会経済史(専1)、事業経営論(専2)
V-2 本科(該当年度も含め過去3年)(M:機械工学科, E:電気情報工学科, C:物質工学科, B:環境都市工学科)と略記
(平成28年度)人類史Ⅱ(3E, 3C, 3B)、科学技術史(3M, 3E, 3C, 3B)、科学技術社会史(4M, 4E, 4C, 4B)、技術者倫理(5M, 5E, 5C, 5B) (平成27年度)人類史Ⅰ(2M, 2E, 2C, 2B)、科学技術史(3B)、科学技術社会史(4M, 4E, 4C, 4B)、技術者倫理(5M, 5E, 5C, 5B) (平成26年度)人類史Ⅰ(2M, 2E, 2C, 2B)、科学技術史(3B)、科学技術社会史(4M, 4E, 4C, 4B)、技術者倫理(5M, 5E, 5C, 5B)